

ひこねしちよ一の部屋



◀ひこねしちよ一
CHはこちら

1860年の「桜田門外の変」では水戸藩・薩摩藩を脱藩した武士により彦根藩主である大老の井伊直弼公が暗殺されましたが、水戸市とは1968年に当時の井伊直愛・彦根市長が親善都市として協定を締結、歴史を乗り越えてさまざまな交流を深め今日に至っております。

このたび薩摩藩出身の有村家の子孫であり現当主の有村國俊・滋賀県議会議長と高橋靖・水戸市長に仲介をしていただき、薩摩藩の島津家の現当主である島津忠裕氏と下鶴隆央・鹿児島市長と合意、1月16日に鹿児島市と彦根市の交流連携協定を締結いたしました。

実は島津薩摩藩と井伊彦根藩との関係は「桜田門外の変」だけではありません。1600年の「関ヶ原の合戦」で、敗北を確信した薩摩島津部隊



は、敵陣を正面突破し、薩摩へと退却します。それを追いかけた井伊直政公は大きな鉄砲傷を負い、翌々年亡くなりまし

た。が、その亡くなるまでの間、家康公に進言し島津家を擁護したのは他ならぬ直政公であり、島津氏と井伊直岳・現当主らとの対談では島津氏から、この直政公の擁護があったからこそ今日の島津家がある、この歴史を顕彰し今後の更なる交流につなげていきたい旨のお言葉をいただきました。ここが今回、鹿児島市、彦根市が交流連携に至った最も重要な歴史的一幕ではないかと思います。

現在彦根城は世界遺産登録を目指していますが、島津家の御殿である旧集成館は世界遺産の構成要素となっております。また井伊直弼公は茶人としても有名で、その功績を広めようとさまざまな取り組みが始まったところですが、「関ヶ原の合戦」時の島津義弘公は江戸初期の茶人であることが研究されています。

これらの歴史・文化を改めて学び、水戸市や佐野市、高松市と同様、今後の鹿児島市と更なる交流が深まることを願ってやみません。

和田 裕行

彦根城は、知れば知るほど、オモシロイ。

未来に残そう みんなのお城 -vol.23-

大名と家臣のコミュニケーション -茶の湯-

彦根城を世界遺産に



☎ 彦根城世界遺産登録推進室
☎ 26-5833 ☎ 26-5899

江戸時代の大名は、家臣とコミュニケーションをはかるため茶会を開催しました。特に、井伊直弼は、茶の湯に熱心で、「二期一会」と「独座観念」の言葉を残しています。「二期一会」はよく知られていますが、「独座観念」とは、茶会でのコミュニケーションを大切にすることだけでなく、客が帰った後もその日の茶会のことを思い出しながら、客との出会いやつながりを大切に想うことです。真のコミュニケーションと言えるかもしれません。彦根市では、この直弼の精神を大切に受け継ぐため一昨年の4月1日に「井伊直弼公の功績を尊び茶の湯・二期一会の文化を広める条例」を制定しています。

